無聖

第77号

◆「譲り伝えん　御仏の道」
　会長　長谷川俊昭 ……2
◆平成29年度　事業報告 ……3
◆平成29年度　収支決算報告 ……5
◆平成30年度　事業計画 ……6
◆平成30年度　予算書 ……7
◆50周年企画「歴代会長を訪ねる」 ……8
◆平成30年度第一回研修会 報告 ……10
◆平成30年度ソフトボール大会報告……10
◆サンタピアップみやぎ活動報告 ……11
◆平成30年度正会員新入会員 ……12
◆平成30年度正会員卒業の方々 ……12
◆事務局だより ……12

会長挨拶

護り伝えん 御仏の道

第25期会長　耕徳寺　住職
長谷川 俊昭

この度の大阪府北部地震ならびに平成三十年七月豪雨によりお亡くなりになられた方々のご冥福を心よりお祈りいたしますとともに、被害を受けたすべての皆様にお見舞いを申し上げます。

会員一同、被災地の一日も早い復旧をご祈念申し上げます。

早いもので第二十五期宮曹青会長を拝命し二年目を迎えました。

平素より会員各位のご協力ご加担、県内御寺院様にご理解とお力添えをいただいておりますこと謹んで感謝を申し上げます。

創立五十周年の節目を迎える今期「護り伝えん御仏の道」をスローガンとし諸先輩老師が仏道を行持、研鑽を重ねられた足跡を学び、会員共々に、そのみ教えを護り伝える体現者となるべく活動に取り組んでおります。

○平成三十年五月十七日
全曹青復興支援室分室行茶活動　加担

全曹青復興支援室が亘理町で五年に亘り続けられている活動で、今回は亘理町「高須賀公会堂」を会場に、お茶を飲みながら包い玉の作成や懇談に穏やかな雰囲気の中、行茶活動に参加をいたしました。公営住宅が完成し「街」としての復興が進む一方でそれぞれの「つながり」が弱くなっている現実を多くの皆さんからお聞かせいただきました。微力であっても地域の方々をおつなぎする、このような活動を大事に、ともに寄り添い続けて参りたいと存じます。

○平成三十年六月六日
平成三十年度　ソフトボール大会

震災後初となる仙台市海岸公園野球場開催のソフトボール大会には、四十七団体三百十三名もの方々が参加、天候にも恵まれ環境の整った会場で、互いに汗をかきながら会員同士の垣根を超え交流と親睦を深めることが出来ました。

ご参加、ご協力をいただいた皆様に心より感謝を申し上げます。

○平成三十年七月四日
平成三十年度　第一回研修会
「身心が整う坐禅の実修」
前曹洞宗国際センター所長　藤田一照老師

今期の研修は「参禅弁道」をテーマに、歴代祖師が伝えられた「坐禅」を根本に据えその理解を深めつつ、より実践的な指導法の研鑽を目指して参りました。

前年の研修では、講議と体を使いながらのワークで坐禅の身体感覚について学び、今回は自身の身体を動かし、その意識や働きを一つ一つ確認しながら進めていくワークで理論的かつ大変説得力のある指導法を学ばせていただきました。

県内では、今期の研修をきっかけとして坐禅会を始められた会員諸師やこれから始めようと準備を進める方々もおり、曹洞禅の敷衍を担う宗侶として認識を深められた研修会となりました。

○平成三十年七月十一日
第四回曹洞宗宮城県「檀信徒集会」随喜

宗務所・宗務所護持会主催「檀信徒集会」に随喜させていただきました。

県内檀信徒の皆様が宗門の教えに学び、信仰を高め合い、檀信徒としての誇りと喜びを感じていただくことを目的とし、更には震災が残した悲しみや辛さを抱えた方々の心の復興を願い開催された集会に宮曹青として七十七名随喜それぞれが法要系・会場系・展待系・駐車場等々の配役を務めました。

これまでの行持の知識、特に前期の東北地方集会「宮城大会」の経験が各配役で遺憾なく発揮されながらも、私たち自身も多くの学びと気づきを頂戴した集会となりました。

○平成三十年七月十九日
平成三十年七月豪雨復興支援募金活動

西日本広域に亘り甚大な被害を受けた豪雨災害の復興支援として募金を呼びかけたところ、大変多くの皆様から温かいお気持ちをお寄せいただきました。「暑いのにご苦労さま」「頑張って下さい」の言葉や飲み物、飴を差し入れてくださったご通行の皆さんの想いに感謝をしながらも、それは同時に豪雨被害に遭われた方々への言葉や想いであると気づかされました。「私たちの、あの時（東日本大震災）のように大変な思いしてるよね」という言葉が遠くにいても寄り添いたいという尊いお気持ちの顕れであり、その大切さをあらためて学ばせていただきました。

募金は全額、日本赤十字社にお送りいたしました。

○宮曹青創立五十周年記念事業
記念式典・講演会
平成三十年十一月三十日　仙台サンプラザ

十一月に迫った記念式典・講演会・記念誌発行に向け現在鋭意準備を進めております。

結びに、今後とも会員各位、県内御寺院様の益々のご協力・ご理解のほど、何卒お願い申し上げます。

合掌

平成 29 年度　事業報告（関連事業も含む）

●宮城県曹洞宗青年会

月日		事　　項	場　　所	備　　考
平成29年				
4月	5日	檀信徒集会小委員会作業部会	玄光庵	会長・顧問・広報委員長参加
	6日	第24期監査会	道安寺	第２４期三役参加
	9日	第25期新役員会準備会	林香院	
	11日	役員会① 理事会①	道安寺	
	18日	定例総会	ホテルニュー水戸屋	
	20日	婦人会総会	宗務所	会長参加
	21日	宗務所挨拶	宗務所	会長・清水副会長・事務局長
	29日	発送作務①	洞雲寺	12名参加
5月	1日	南方仮設挨拶	南方仮設住宅	会長・ボラ委員長参加
	11日	寺族会総会	水戸屋	会長
	15日	ボランティア委員会①	林香院	14名参加
	16日	研修委員会①	圓満寺	18名参加
	16日	檀信徒集会小委員会	宗務所	会長・北村顧問・広報委員長
	18日	ＳＶＡ挨拶	シャンティ国際ボランティア会（新宿区）	6名参加
	19日	発送作務②（事務局・ボラ共催）	洞雲寺	15名参加
	23日	交流事業委員会①	洞雲寺	11名参加
	28日	広報編集委員会①	道安寺	9名参加
	31日	県梅花流奉詠大会委員会	宗務所	会長
6月	2日	傾聴行茶活動「仏一息」	登米市南方仮設住宅集会所	22名参加
	5日	役員会② 理事会②	洞雲寺	
		50周年記念事業準備委員会①	〃	
	9日	発送作務③	洞雲寺	8名参加
	12日	檀信徒集会小委員会	宗務所	会長・北村顧問・広報委員長
	20日	交流事業委員会②	金剛寺	12名参加
	22日	ソフトボール大会	富谷市総合運動公園グラウンド	303名参加
	28日	研修委員会②	林香院	6名参加
	29日	広報編集委員会②	道安寺	5名参加
7月	2日	サンタピアップ総会	国分尼寺	34名参加
	5日	県梅花流奉詠大会委員会	宗務所	会長
	7日	第一回研修会（講師：藤田一照老師）	林香院	48名参加
	9日	広報編集委員会③	道安寺	3名参加
	14日	ボランティア委員会②	松島町文化観光交流館	14名（3教区青年会含）
	19日	檀信徒集会小委員会	宗務所	6名参加
	20日	発送作務④	洞雲寺	8名参加
		交流事業委員会③	洞雲寺	13名参加
	24日	県梅花流奉詠大会委員会	宗務所	事務局長
	27日	全国青少年教化協議会	石巻市	3名参加
	31日	研修委員会③	圓満寺	3名参加
8月	3日	ボランティア委員会③	洞雲寺	6名参加
	8日	発送作務⑤（広報編集委員合同）	洞雲寺	10名参加
	26日	法山寺幼稚園夏祭りサンタピブース設置	法山寺幼稚園	6名参加
	30日	発送作務⑥（ボラ委員合同）	洞雲寺	9名参加
	31日	県梅花流奉詠大会委員会	宗務所	神作副会長
9月	1日	バザー挨拶　3教区教区長・寺族会会長	福定寺、雲洞院	会長・ボラ委員長・楡木理事
	6日	ボランティア委員会④	松島町文化観光交流館	22名参加（3教区青年会含）
	14日	発送作務⑦	洞雲寺	
	15日	カンボジア教育支援チャリティバザー準備	松島町文化観光交流館	91名参加
	16日	カンボジア教育支援チャリティバザー		72名参加
	24日	研修委員会④	圓満寺	5名参加
10月	4日	県梅花流奉詠大会準備	仙台サンプラザ	17名参加
	5日	県梅花流奉詠大会	〃	17名参加
	6日	研修委員会⑤	圓満寺	9名参加
	13日	広報編集委員会④	道安寺	5名参加
	17日	役員会③理事会③	洞雲寺	
		50周年事業準備委員会②	〃	
	19日	檀信徒集会小委員会	宗務所	5名参加
	23日	発送作務⑧	洞雲寺	6名参加
11月	1日	大森仮設挨拶	石巻市大森仮設	会長・ボラ委員長・坂本顕一師
	10日	発送作務⑨（ボラ委員合同）	洞雲寺	9名参加
	18日	傾聴行茶活動「仏一息」	石巻市大森第4仮設集会所	11名参加
	20日	第二回研修会（講師：宇野全智老師）	林香院	50名参加
12月	1日	檀信徒集会小委員会	宗務所	4名参加
	7日	役員会④理事会④	洞雲寺	
		50周年事業準備委員会③	〃	
	20日	発送作務⑩	洞雲寺	5名参加
	20日	伊達老師講演会並びに忘年会	ホテルニュー水戸屋	40名参加

●宮城県曹洞宗青年会

月日	事　　項	場　　所	備　　考
平成30年			
1月 22日	仙台市公共施設優先予約会議	ユアテックスタジアム	2名参加
29日	宗務所婦人会新年会・研修会	仙台サンプラザ	会長参加
2月 1日	広報編集委員会⑤	道安寺	7名参加
6日	布教委員会	宗務所	会長参加
7日	慰霊行脚打ち合わせ	建立寺	4名参加
13日	交流事業委員会④	洞雲寺	
13日	発送作務⑪	洞雲寺	6名参加
19日	会員大会　第１部　渡辺祥子氏講演会	ホテルグランテラス仙台国分町	83名出席
	会員大会　第２部　ボウリング大会	ボウルサンシャイン	92名出席
	会員大会　第３部　懇親会	ホテルグランテラス仙台国分町	94名出席
21日	檀信徒集会小委員会	玄光庵	会長・顧問参加
23日	広報編集委員会⑥	道安寺	9名参加
27日	檀信徒集会運営委員会	宗務所	6名参加
3月 3日	傾聴行茶活動「仏一息」	石巻市大森第4仮設集会所	10名参加
5日	慰霊行脚下見	石巻市大川地区	5名参加
9日	広報編集委員会⑦	道安寺	6名参加
11日	東日本大震災慰霊行脚	石巻市大川地区	17名参加（宮曹青のみ人数）
12日	人権擁護推進委員会	宗務所	会長参加
13日	役員会⑤理事会⑤	洞雲寺	
	50周年事業準備委員会④	〃	
22日	広報編集委員会⑧	道安寺	6名参加
22日	発送内容⑫	洞雲寺	10名参加
26日～31日	カンボジアスタディツアー	トゥール・クラサイン小学校贈呈	18名参加

※この他「三役会」「役員打合せ」を随時開催

●東北地区曹洞宗青年会連絡協議会（地協）

月日	事　　項	場　　所	備　　考
平成29年			
5月8日	常任幹事会・定例幹事会	山形国際ホテル	16名参加
8月22日	臨時常任幹事会	皆伝寺（加美町）	会長参加
10月30日	東北地方集会「青森大会」	涼雲院・グランドサンピア八戸	18名参加
12月21日	薪配り・傾聴ボランティア	福島から岩手県岩泉町へ	2名参加
平成30年			
2月27日	常任幹事会	仙台市内	2名参加

●全国曹洞宗青年会

月日	事　　項	場　　所	備　　考
平成29年			
5月17日	中央研修会	東京グランドホテル（宗務庁）	11名出席
5月18日	定期総会	〃	12名出席
6月23日	復興支援室行茶活動	亘理町西木倉住宅	3名参加
10月6日	復興支援室行茶活動	亘理町勤労青少年ホーム	6名参加
11月22日	評議委員会	東京グランドホテル（宗務庁）	会長参加
12月22日	クリスマス会	石巻市万石浦小学校	3名参加

※この他、長尾師・酒井師・高橋師各委員会活動随時参加

●全日本仏教青年会（全日仏青）

月日	事　　項	場　　所	備　　考
平成29年			
4月26日	花まつり千僧法要	奈良県東大寺	10名参加
9月4日	全日仏理事長就任祝賀会	プリンスタワー東京	4名参加

●宮城県仏教青年連絡協議会（平成29年度より新設）

月日	事　　項	場　　所	備　　考
平成29年			
5月26日	第1回協議会	冷源寺（他宗派）	会長・北村顧問参加
9月14日	第2回協議会	常念寺（他宗派）	会長参加
平成30年			
1月17日	第3回協議会	常念寺（他宗派）	会長参加
3月2日	第4回協議会	常念寺（他宗派）	会長参加

平成 30 年度　宮城県曹洞宗青年会収支決算報告

自 平成29年4月1日　　至 平成30年3月31日

●収入の部

項　目	本年度予算	本年度決算	比較増減	備　考
Ⅰ会費収入	3,280,000	3,345,000	65,000	
1.正会員	1,830,000	1,890,000	60,000	10,000円×189名
2.賛助会員	700,000	715,000	15,000	5,000円×143名
3.特別会員	750,000	740,000	▲ 10,000	10,000円×74団体
Ⅱ助成金	250,000	250,000	0	宗務所より
Ⅲ雑収入	4,356	30,010	25,654	県梅花大会加担謝礼、利子
Ⅳ繰越金	1,060,644	1,060,644	0	前年度より
合　計	4,595,000	4,685,654	90,654	

●支出の部

項　目	本年度予算	本年度決算	比較増減	備　考
Ⅰ会議費	210,000	169,000	▲ 41,000	
1.総会費	50,000	50,000	0	定例総会
2.理事会費	25,000	25,000	0	会場費
3.役員会費	35,000	25,000	▲ 10,000	会場費
4.委員会費	100,000	69,000	▲ 31,000	４委員会・事務局会開催費
Ⅱ事務費	1,200,000	1,233,178	33,178	
1.消耗品費	100,000	108,652	8,652	事務用品、用紙代等
2.通信費	550,000	626,766	76,766	郵送料、振込手数料、電話料、ＨＰ管理費
3.印刷費	150,000	137,160	▲ 12,840	封筒印刷、プリンタインク代等
4.備品費	150,000	129,960	▲ 20,040	事務機使用料等
5.慶弔費	50,000	30,640	▲ 19,360	慶弔電報等
6.事務諸費	200,000	200,000	0	事務局・庶務・会計事務費補助
Ⅲ事業費	2,050,000	2,029,266	▲ 20,734	
1.研修委員会	250,000	254,290	4,290	研修会×2回
2.ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱ委員会	250,000	230,385	▲ 19,615	チャリティーバザー
3.広報編集委員会	600,000	663,120	63,120	『無聖』発行×2回
4.交流事業委員会	200,000	165,271	▲ 34,729	ソフトボール大会、会員大会
5.教化費	50,000	50,000	0	会員大会時助成
6.事業諸費	250,000	245,000	▲ 5,000	旅費補助（千僧法要、全曹青総会、地協大会参加者）
7.会員名簿作成費	450,000	421,200	▲ 28,800	第２５期会員名簿作成費
Ⅳ負担金	250,000	241,000	▲ 9,000	全曹青・地協会費
Ⅴ予備費	385,000	0	▲ 385,000	
Ⅵ雑費	150,000	150,199	199	渉外活動費、各会議茶菓等
Ⅶ繰出金	350,000	350,000	0	
ボランティア基金	50,000	50,000	0	ボランティア基金へ繰出し
特別事業準備金	0	0	0	
復興支援活動金	0	0	0	
50周年事業準備金	300,000	300,000	0	50周年事業準備金へ繰出し
合　計	4,595,000	4,172,643	▲ 422,357	

■特別会計決算書

ボランティア基金	778,177円
特別事業準備金	2,160,732円
復興支援活動金	680,913円
50周年事業準備金	250,004円

円

総 収 入	4,685,654円
総 支 出	4,172,643円
差　引	513,011円

平成29年度の決算書を上記の通り提出致します。
平成30年4月20日　会長　長谷川　俊昭㊞

【監査報告】平成30年4月6日、21教区安養寺様において監査を行い
平成29年度一般会計が適正に執行され、正確であることを確認いたしました。

監事　二階堂　法淳　㊞　　眞山　隆宏　㊞　　三輪　宗俊　㊞

平成 30 年度　事業計画

●宮城県曹洞宗青年会

月日	事　　項	場　所	備考
平成30年			
4月6日	監査会	安養寺	
4月10日	役員会①理事会①	洞雲寺	
	50周年事業運営委員会①	〃	
4月20日	定例総会	ホテルニュー水戸屋（仙台市）	
6月6日	ソフトボール大会	仙台市海岸公園野球場	
6月上旬～中旬	役員会②理事会②	洞雲寺	
	50周年事業運営委員会②	〃	
7月1日	サンタピアップみやぎボランティア会定例総会	国分尼寺	サンタピアップ関係
7月4日	第1回研修会	林香院	
7月11日	檀信徒集会	仙台サンプラザ	
7月中旬	「無聖」77号発行		
9月10日	カンボジア教育支援チャリティバザー	富谷市成田公民館（予定）	
10月4日	梅花県奉詠大会	仙台サンプラザ	サンタピアップ関係
10月上旬	役員会③理事会③	洞雲寺	
	50周年事業運営員会③		
11月30日	宮曹青50周年記念式典・記念講演	仙台サンプラザ	
12月	カンボジアフェア	セルバ	サンタピアップ関係
12月上旬	役員会④理事会④	洞雲寺	
12月中旬	年次総会・忘年会	未定	
平成31年			
2月上旬	会員大会	未定	
2月中旬	ハガキリサイクルキャンペーン	満興寺	サンタピアップ関係
2月下旬	移動研修	未定	
3月中旬	理事会⑤	洞雲寺	
3月下旬	「無聖」78号発行		

※復興関連事業は被災地の事情等を考慮し適宜開催
※50周年運営委員会・実行委員会は適宜開催
※各委員会・事務局会は適宜開催

●東北地区曹洞宗青年会連絡協議会（地協）

平成30年			
5月7日	常任幹事会・定例幹事会	山形市　国際ホテル	
11月12日	東北地方集会「山形大会」	山形市	

●全日本仏教青年会(全日仏青)

平成30年			
4月3日	未来の僧侶を考えるワークショップ	常念寺（他宗）	
4月26日	千僧法要	奈良　東大寺	

●全国曹洞宗青年会(全曹青)

平成30年			
5月18日	全国曹洞宗青年会　総会・研修会	東京グランドホテル（宗務庁）	

平成 30 年度　宮城県曹洞宗青年会予算書

自 平成30年4月1日　　至 平成31年3月31日

●収入の部

項　　目	29年度予算	30年度予算	比較増減	備　　考
Ⅰ会費収入	3,280,000	3,310,000	30,000	
1.正会員	1,830,000	1,810,000	▲ 20,000	10,000円×181名
2.賛助会員	700,000	750,000	50,000	5,000円×150名
3.特別会員	750,000	750,000	0	10,000円×75団体
Ⅱ助成金	250,000	250,000	0	宗務所より
Ⅲ雑収入	4,356	1,989	▲ 2,367	利息等
Ⅳ繰越金	1,060,644	513,011	▲ 547,633	前年度より
合　　計	4,595,000	4,075,000	▲ 520,000	

●支出の部

項　　目	29年度予算	30年度予算	比較増減	備　　考
Ⅰ会議費	210,000	250,000	40,000	
1.総会費	50,000	100,000	50,000	定例総会・年次総会
2.理事会費	25,000	25,000	0	会場費
3.役員会費	35,000	25,000	▲ 10,000	会場費
4.委員会費	100,000	100,000	0	4委員会・事務局会開催費
Ⅱ事務費	1,200,000	1,250,000	50,000	
1.消耗品費	100,000	100,000	0	事務用品、用紙代等
2.通信費	550,000	600,000	50,000	郵送料、振込手数料、電話料、ＨＰ管理費
3.印刷費	150,000	150,000	0	封筒印刷、プリンタインク代補助等
4.備品費	150,000	150,000	0	事務機使用料
5.慶弔費	50,000	50,000	0	慶弔電報等
6.事務諸費	200,000	200,000	0	事務局・庶務・会計事務費補助等
Ⅲ事業費	2,050,000	1,600,000	▲ 450,000	
1.研修委員会	250,000	250,000	0	研修会×1回 ・移動研修会
2.ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱ委員会	250,000	250,000	0	チャリティバザー
3.広報編集委員会	600,000	600,000	0	『無聖』77・78号発行
4.交流事業委員会	200,000	200,000	0	ソフトボール大会・会員大会
5.教化委員会（教化費）	50,000	50,000	0	
6.事業諸費	250,000	250,000	0	旅費補助（全曹青・千僧法要・地協等）
7.会員名簿作成費	450,000	0	▲ 450,000	
Ⅳ負担金	250,000	250,000	0	全曹青・地協会費
Ⅴ予備費	385,000	125,000	▲ 260,000	
Ⅵ雑費	150,000	150,000	0	渉外活動費、各会議茶菓等
Ⅶ繰出金	350,000	450,000	100,000	
1.ボランティア基金	50,000	50,000	0	
2.特別事業準備金	0	0	0	
3.復興支援活動金	0	0	0	
5.50周年事業準備金	300,000	400,000	100,000	
合　　計	4,595,000	4,075,000	▲ 520,000	

■特別会計決算書

ボランティア基金	828,177円
特別事業準備金	160,732円
復興支援活動金	680,913円
50周年事業準備金	680,913円

総 収 入	4,075,000円
総 支 出	4,075,000円
差　　引	0円

平成30年度の一般会計並びに特別会計予算書を上記の通り提出いたします。

平成30年4月20日　会長　長谷川俊昭　㊞

青年会今期のテーマ「護り伝えん御仏の道」
五十周年企画「歴代会長を訪ねる」

第2回

［インタビュー］広報編集委員会副委員長　松　山　宏　成

今期創立五十周年を迎える宮曹青の歴史を訪ねるということで、その歩みを歴代会長にお伺いしインタビューを連載記事にてお届けしたいと思います。第二回は宮曹青八代会長　光壽院御住職阿部豊淳老師に伺いました「青年会活動の新たな展開」をお伝えいたします。

―阿部豊淳老師の宮曹青での活動についてお聞かせください。

私が責任のある立場で宮曹青にかかわったのは門脇允元さんが二期目の会長をされた昭和五十年からで、宮曹青の事務局長を務めた。昭和五十二年に清水正範さんが会長に就任して、通常だと事務局長も変わるものだが、引き続きお願いしたいということで、続けて事務局長を務めた。この時は、おかしな話だが（笑）、事務局長と副会長を兼務した。

昭和四十八年の門脇会長の頃から宮城県で「禅の集い」の運動が盛んになってきて、例えば私の前に会長をされた高橋恭諄さんは兼務していたお寺を「禅の家」と称して一般の方々に解放した参禅道場を始めたということもあった。当時は講師として初代会長金田諦典さんや閑上の東禅院の三宅俊昭さん、塩釜福定寺の山田恭道さんを招いて、坐禅以外の時間に独参をしてそれに答えて頂いていた。だから結構勉強しなければならなかったし、みんな結構緊張してやっていたんだ。

また、始まりは宮曹青の「夏の禅の集い」だったものだが、光壽院を会場にして毎週水曜日、市内を中心に三十人くらい集まっていた。和尚さんたちより一般の人が沢山来ていた。大本山永平寺の維那をされていた本多祖芳老師が本山送行後に東北福祉大学の禅堂で講師をなさっていたので、会に来て指導いただけることになり、本格的な参禅会として三年程続いた。

―広がりを見せた「禅の集い」は、どのように運営がなされていたのでしょうか？

その時代というのは、和尚さんだけをしているというのではなく、ほとんどが学校の先生とか役場の職員であるとか、あるいは農協に勤めているとか、そういう方がほとんどだった。門脇允元さんや名取の耕龍寺清水正範さん、それから東北曹青の会長をされた皆傳寺の天野宏雄さん、あるいは私の後に会長を務めた江巖寺の我妻耕道さんにしろ、経歴がみんな違っており、戦後の困難な時代に様々な経歴をもっている方がいた。私も宮曹青が発足した昭和44年当時は、一サラリーマンとして働いていた。その様に「禅の集い」には様々な経歴や人生体験を持った宗侶が、難しい禅の普及について色々なアイデアを出し合い、意欲に非常に燃え上がった責任感のある方々が多く関わって運営がなされていた。

私が宮曹青の会長を務めた昭和五十八年から、夏の禅の集いは県単位ではなく、教区単位で行うようになった。ただ、夏休みではなく春休み禅の集いというのを行った。なぜ春休みに禅の集いを行ったのかというと、第一は和尚さんと子どもたちが触れ合う機会を作るということを重視して、また子どもたちが自然と触れ合う機会が少なくなっていたのでそういう自然と触れ合う機会を作ろうとした。

鳴子の洞川院さんで行った際は、鳴子のこけし会館で絵付けをしたり、鳴子の町をウォーキングに行ったりした。貸布団を用意してお寺で寝泊まりし、青年会で飯台を準備した。翌年には南蔵王の烏帽子スキー場近くの宿を会場にして行い、この時はテレビ局も同行して取材を受けた。参加した子供たちは五十人～六十人くらいだったんじゃないかな。定員一杯だったんだ。「わんぱくクルーズ　北海道」は清水正範さんが会長の頃のアイデアだったけれど、実際に行ったのは私が会長の頃だった。

―その頃は高度経済成長の時代で、マンションやアパートに住んでる子ども、一人で留守番をしている子どもなどを対象にした、寺子屋のような活動が盛んだったと伺ったことがあります。

少し話は変わりますが、当時の世相にもとづいた活動ということで、現在のサンタピアップみやぎボランティア会の源流となった、カンボジア難民救済古着キャンペーンについてお聞かせください。

この活動は、ポルポト政権などの影響を受けて東南アジアで多くの難民が発生した当時、福島県の宗議会議員吉岡棟一老師の強い思いによって活動が始まった。その年代の方々というのは、中国や東南アジア現地での戦争体験を持っておられたし、戦後の経済成長の利益をただ謳歌するのではなくて、日本が何かできることがあるのでは、という思いがあったのでしょう。

—それが東南アジアの支援につながっていったんですね。

現在宮城県宗務所長を務められている小野崎秀通さんは、大学を出た後タイのお寺で修行していた。タイの事情も分かっていたので、吉岡老師が難民の状況を視察に行くときに、小野崎さんが道案内役を務めた。その視察の結果をもとに、曹洞宗東南アジア難民救済会議が発足した。支援活動を支えたのが、後のSVA専務理事の有馬実成師だった。その頃彼は全曹青の広報企画部長だった。有馬さんが仙台に来られ、東北曹青の当時のメンバー、宮城県では初代東北曹青会長の皆傳寺天野宏雄老師、青森県の三浦義弘老師、岩手県の菊池裕光老師をはじめとする方々に声を掛け、現地へボランティアに行くこととなった。第一陣として天野さん、清水正範さん、三浦義弘さんが行かれた。

現地での実際の活動では、とりわけ清水正範さんが以前自衛隊に勤めていた時に培ったノウハウを活かし、現地での組織作りや拠点の運営の仕方などに尽力された。その後、宗務庁の曹洞宗東南アジア難民救済会議から活動を引き継いだのがSVAで、中心となったのはハワイ開教師をされていた松永然道さんと有馬さんだった。江巖寺の我妻耕道さんが理事をされ、そして和尚さんになる前にIT関係の仕事をしていたので、私が監査を引き受けた。

その後昭和五十八年に私が会長を務めた時、SVAが全国に声を掛けて、難民に対して衣類を集めて送る「難民救済古着キャンペーン」を行い、これに大々的に取り組んだのが宮城県の青年会で、約五万着ほど集まった。初めは自坊の本堂に集まった衣類を入れようかと思ったが、たまたまお檀家さんにパチンコ屋をやっている方がいて、大きなホールを持っていた。その方は戦時中、中国戦線で大変な戦争体験をされた方で、戦後苦労して財を成した方だった。その方が大きなパチンコホールを衣類の保管用に貸して下さった。

また、集めるだけ集めても、それを送るためのお金が必要だった。それで托鉢をして、人々から浄財をお寄せいただいた。また、現地の実情を撮影したチャリティ映画会や、チャリティバザーも行った。宮曹青として本格的にチャリティバザーを行ったのは、昭和58年の、私が会長の時期だった。

—続いて全曹青についてお尋ねします。昭和五十年に門脇允元老師が全曹青の初代会長として発足した初期のスローガンは「大衆教化の接点を求めて」というものですが、この当時の背景はどのようなものでしたか？

その当時のお寺の若い人たちというのは、一般社会との距離感を感じていたのではないか。その当時は問題意識も非常に強かったと思うよ。

—戦後の日本の経済発展やアジアとの格差、冷戦や紛争といった状況の中で、何をするべきかという気持ちがあったのですね。

これからは色々な意味でさらに厳しい状況になるのではないか。

今の若い和尚さんの中にも様々な経歴を持っていて、自分の趣味や特技を生かした方々が増えてきているけれど、一番気を付けなくてはいけないのは、そこに「行」がなくてはいけないということ。「行」がなくて「〜〜〜クリエイター」というのでは、ただの遊び人だ。

難しいことではなく、一日一日の研鑽。それなくして仏法興隆はあり得ない。料理屋さんが自分の料理を研鑽しなくて他の事をやっても駄目だ。最近自転車に乗って郊外まで走るのだけども、曹洞宗のお寺で乱れているのを見ると残念に思うよ。まずは自分の山門、自分の玄関を掃除することだと思う。意外とほかの宗派はしっかりしているな。

その地域においてお寺が癒しの場となる、心の安らぐ場になるには、特別なことするのではなくて、とにかく掃除することだと思うよ。庭造りで有名な枡野俊明さんも、宗門の教学から見たきちっとした視線を持っている。ただ造ればいいというわけではなく、自分の仏法観というのか、それが彼の庭造りの視点だと思う。だからさっきの色んなクリエイターも、そういった仏法観がなければ駄目だ。そういう人はどこでもありふれているし、感動を呼ばない。

「禅の集い」や宮曹青の活動は、お互い刺激し合い自己啓発する場になるだろうし、お互いがお互いを励まし合う場になっていくのではないか。みんなで遊んでいたのではどうしようもない。青年会の活動というのは、自分が意識しなくとも、知らず知らずのうちに何か学んでいるもの。私が青年会に二十代で参加した時に、門脇允元さんとか清水正範さんとか金田諦典さんがいて、知らず知らずのうちに感化されていたわけだ。霧の中を歩けば、知らず知らずに衣が濡れていくように。

—当時の貴重なお話をお聞かせいただきましてありがとうございました。

「禅の集い」が県内で広まっていく社会背景にも、カンボジア難民支援という苦しむ人々へ手を差し伸べる活動にも、老師の口から共通して語られたのは「何とかしなければ」という思いでした。仲間として集まった青年宗侶それぞれ持つ経験や熱意を持ち寄って、それを束ねて会の活動となっていき、やがて私たちの時代まで形は変わりながらも引き継がれていく、そんな会の在り方を伺うことが出来ました。

「護り伝えること」が私たち宮曹青活動に限ることなく、地域社会に結びついた存在であるお寺を担う存在として、相互に研鑽を積むことが出来るのも、共に思いを持って集う仲間の青年会だからできることなのだと、強く実感をいたしました。

平成三十年度宮曹青第一回研修会報告書

【講師】前曹洞宗国際センター所長
インターネット寺院「磨塼寺」主宰　藤田一照　老師

平成三十年七月四日（水）、仙台市林香院様を会場に、昨年に引き続き藤田一照老師を講師にお迎えし、『身心の調う坐禅の実修』を演題に第一回研修会を開催いたしました。

正会員、賛助会員、県内外の御寺院様合わせて四十名の方々にご参加いただきました。

今期の宮曹青の研修テーマである「参禅弁道」を、自他の修行として総括的に理解すること、また別の側面では各個の参禅指導の充実化を図ることを研修の目的としました。藤田老師には、昨年に引き続き、実修を重点に置き約四時間のご指導をいただきました。

実修に先立ち、「実習（習禅）」と「実修（坐禅）」、の違いとは具体的にどう理解すべきか、というご教示をいただきました。また、古武術における身体観をもとに、古来よりの体の仕組みの理解の仕方を学び、それに従って坐禅における自身の体の作り方（坐禅への準備）を意識することをご提言いただきました。老師の非常に具体的で説得力のある内容に、参加者一同深い興味をもって拝聴、そしてその一端を実際に体験させていただきました。引き続き藤田老師ご自身が普段指導されている坐禅指導を参加者全員で体験し実修させていただきました。

前回の講義の復習も兼ねて、ゆっくりと時間をかけながら身体の中の、ありとあらゆる部分に意識的や無意識に関わらずかかる力を除きつつ、最終的に坐禅の形にたどり着く実修から行いました。

道元禅師の「正法眼蔵」の各巻や「普勧坐禅儀」、その他の祖録に示された文言になぞらえていくように坐る、そして歴代の祖師方が、おそらくは日常的に勤めておられたであろう坐の形に、自身の身心を近づけていく為の様々な工夫と参究は、とても具体的で、今後の参考になるものでした。

藤田老師曰く、もう少し時間を使って最後に「調心」についてもう少し掘り下げたかったとのことでしたが、老師には限られた時間の中で最後まで懇切丁寧にご指導いただき、また休憩中や講義後の質疑にも丁寧にご対応いただきました。それにより、参加者一同が改めて坐禅について、そしてその指導についての理解と感覚を再認識させていただいた研修となりました。

このたびの研修会開催にあたり、様々な形でご加担ご協力下さいました皆様に感謝の意を表し、報告に代えさせていただきます。

〈研修委員長　舘寺　規弘〉

曹洞宗宮城県宗務所・宮曹青共催

平成三十年度ソフトボール大会　報告書

去る平成三十年六月六日に仙台市海岸公園野球場にて「宮城県曹洞宗宗務所・宮曹青共催　平成三十年度ソフトボール大会」が開催されました。

本年は梅雨入り前に大会を行うことで毎年懸念される天気にも恵まれ、また会場も震災後改修・整備された海岸公園野球場に戻し、今年も三百十三名の皆様にご参加いただき、盛大に行われました。

試合は二十四チーム、六グラウンドを使用し予選リーグを行い、その後八チームによる決勝トーナメントが行われ、結果「ベルコチーム」の優勝で大会の幕が閉じられました。

各グラウンド接戦も多く、ユニフォームの汚れに選手のひたむきなプレーの跡が見て取れました。

最後に参加者、関係各位の皆様のご協力により無事大会を終えることができましたことを心より感謝申し上げます。ありがとうございました。

〈交流事業委員長　八巻　英成〉

宮曹青主管　カンボジア教育支援活動

サンタピアップみやぎボランティア会

平成三十年度「定例総会」報告

去る七月一日（日）、仙台市国分尼寺様を会場に「平成三十年度定例総会」・「カンボジアスタディツアー報告会」が開催されました。

本年度の事業としては、これまでの書き損じハガキと切手の収集、古本リサイクル事業などのほか、オリジナルカレンダーの販売、カンボジア教育支援写経の販売などを展開してまいります。

平成二十九年度のご報告

◆**学校建設事業**

（**対象校**：カンボジア王国バッタンバン州トゥール・クラサイン小学校）一棟三教室新校舎・祠・トイレ・貯水設備の建設、図書・文房具・スポーツ用品の贈呈

※サッカー・ベガルタ仙台様からもサッカーボールと文具のご支援を頂戴しました。

◆ご提供頂いた書き損じハガキの枚数・・一七、〇二七枚
◆交換ハガキ売上金　・・・・・・・一、〇八五、四〇〇円
◆古本・CD等のリサイクル支援・・・・一四、六〇一円
◆カレンダー事業・・・・・・・・・九〇〇、三〇〇円
◆カンボジア教育支援写経事業・・・四四二、二〇〇円
◆寄付金総額　・・・・・・・・・・・・二二八、一九六円

当会オリジナル

『二〇一九年 卓上カレンダー』並びに『カンボジア教育支援写経』製作・販売

今年もオリジナルカレンダーおよびカンボジア教育支援写経の販売をいたします。カレンダーは秋口より販売開始予定、写経は通年販売しております。

●**卓上カレンダー**
一部　三〇〇円
・ハガキサイズ
・カラー十六枚組
・ケース付

●**カンボジア教育支援写経**
一部　三〇〇円

書き損じハガキ・切手の送り先

〒九八一―三二二一　仙台市泉区根白石町東五
泉根白石郵便局留「サンタピアップ」宛

支援金の送り先

郵便振替口座
名　　義　サンタピアップみやぎボランティア会
口座番号　〇二二九〇―六―四八七四四

支援金の送り先

●皆様のご家庭にある、漫画や文庫本・CD・DVD・ゲームソフト等の買い取りを『BOOKOFF（ブックオフ）』の宅本便（無料集荷）を利用し、インターネット上で依頼してご提供頂きます。

●ご提供商品の集荷をご依頼する際、商品の買い取り額の入金先口座を当会の口座に指定することで、当会への寄付（支援）金となります。

◎ご提供下さいます方は、インターネットで「ブックオフ宅本便」で検索・ご依頼下さい。

指定口座『ゆうちょ銀行』
【記号】18110　【口座番号】05490731
【名義】サンタピアップミヤギボランティアカイ

ホームページ

スタディツアーの様子の動画もございます。ご覧下さい。
URL http://www.santapi.com/

サンタピアップ事務局

〒九八一―三二二一
仙台市泉区根白石字町西上二七　満興寺内
TEL：〇二二　二七六　三九二〇（専用）
FAX：〇二二　二七九　四九五七
E-mail：info@santapi.com

平成三十年度正会員新入会員

・第二十一教区　長泉寺徒弟　**眞山　隆寛**
・第九教区　桃源院副住　**奥野　健也**
・第十教区　石雲寺徒弟　**宮本　祥史**

平成三十年度正会員卒業の方々

・第三教区　鳳壽寺住職　**鈴木　俊龍**
・第五教区　関泉寺副住　**田村　芳規**
・第六教区　西円寺住職　**石龍　英紀**
・第八教区　西昌寺徒弟　**髙橋　大起**
・第九教区　養性寺副住　**平地　博昭**
・第十三教区　永巌寺住職　**本多　賢浩**
・第十三教区　満福寺住職　**永松　賢道**
・第十二教区　観音寺徒弟　**齋藤　卓也**

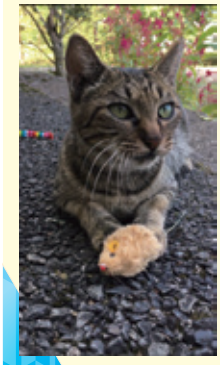
事務局だより

平成三十年度定例総会報告

去る四月二十日(金)午後四時より、ホテルニュー水戸屋に於いて「平成三十年度定例総会」が開催されました。初めに副会長神作紹道師より開会宣言、第二十五期会長谷川俊昭師より挨拶があり、続いて事務局から定足数を満たす計百十四名(出席者五十名、委任状六十四通)により今総会の成立が報告されました。議長には第三教区鈴木俊龍師が選出され、議長進行のもと次の議案について審議され、全て承認されました。終わりに副会長清水大伸師の閉会宣言を以って無事に終了いたしました。

題名「境内の猫たち」

「その日を境にサバトラは毎日、山門を潜って通って来るようになりました。その猫も私もいわば敵同士でしたが、互いに遠くから様子を伺うようになりました。数日後にはすっかり懐いてしまいました。首輪をつけ手紙を携えさせると、何日かして連絡があり近所の農　家の飼い猫である事が判明しました。そして両家公認の通い猫になってしまいました。まんまとその猫の術中にはまってしまった様な気がしました。　続く」・・・・七十七号掲載



第八教区　皆傳寺内　天野　宏心

審議事項

①平成二十九年度東日本大震災復興支援活動報告並びに決算報告
②平成二十九年度事業報告
③平成二十九年度収支決算報告並びに監査報告
④平成三十年度事業計画(案)
⑤平成三十年度予算(案)

カンボジア教育支援

第二十四回チャリティーバザー開催のお知らせ

【日時】 平成三十年九月十日(月)午後一時～販売
【場所】 富谷市成田一―一―一［富谷市成田公民館］
今年も会員皆様のご参加・物品提供
ご協力をお願いします！

「平成三十年七月豪雨」復興支援募金活動

七月十九日、仙台市内にて募金活動を行い、多くの方より心温まる募金を頂戴いたしました。

募金総額は二十九万三千百四十五円となり、すべて日本赤十字社にお送り致します。

西日本の豪雨で犠牲になられた方々の冥福をお祈りすると共に、被災地の早期復旧復興を心より祈念しております。

表紙写真　第１回研修会の様子

無聖 第77号（平成30年8月8日発行）

表紙題字　宗務所長 小野﨑秀通 老師
編　　集　宮城県曹洞宗青年会
発 行 人　長谷川俊昭
事 務 局　宮城県仙台市泉区
山の寺2-3-1洞雲寺内
T E L　090-2849-3830(専用)
F A X　022-372-3427
U R L　http://miya-sousei.com
E-mail　info@miya-sousei.com

R70 古紙パルプ配合率70%再生紙を使用
PRINTED WITH SOY INK 環境に優しい大豆油インキを使用しています。
ホームページはこちら 宮曹青 検索